



バリュエーション講座
ケース「晴海汽船株式会社」
第17回

第17回目講義のトピック

- 類似企業比較法の実施

類似企業比較法とは (復習)

類似する（上場）企業の価値を参考に
対象企業の価値を評価する手法

類似企業を参考に **収益や売上の x 倍** という形で価値を算定

- ① 類似企業の選定
 - ② 倍率指標の選定
- の2つがポイントとなる

類似企業比較法の計算ステップ (復習)

類似企業比較法の適用には以下のステップとなる

1. 類似企業の選定
2. 類似企業の企業 / 事業価値算定
3. 比較倍率の選定・計算
4. 対象会社へ倍率を適用

本件における類似企業比較法の適用方針

本件においては以下の前提を進める

1. 類似企業の選定 ⇒ DCF の過程で選定済
2. 類似企業の事業価値算定
3. 比較倍率の選定・計算 ⇒ EV/EBITDA および EV/EBIT を使用
4. 対象会社へ倍率を適用

実演

モデル更新作業

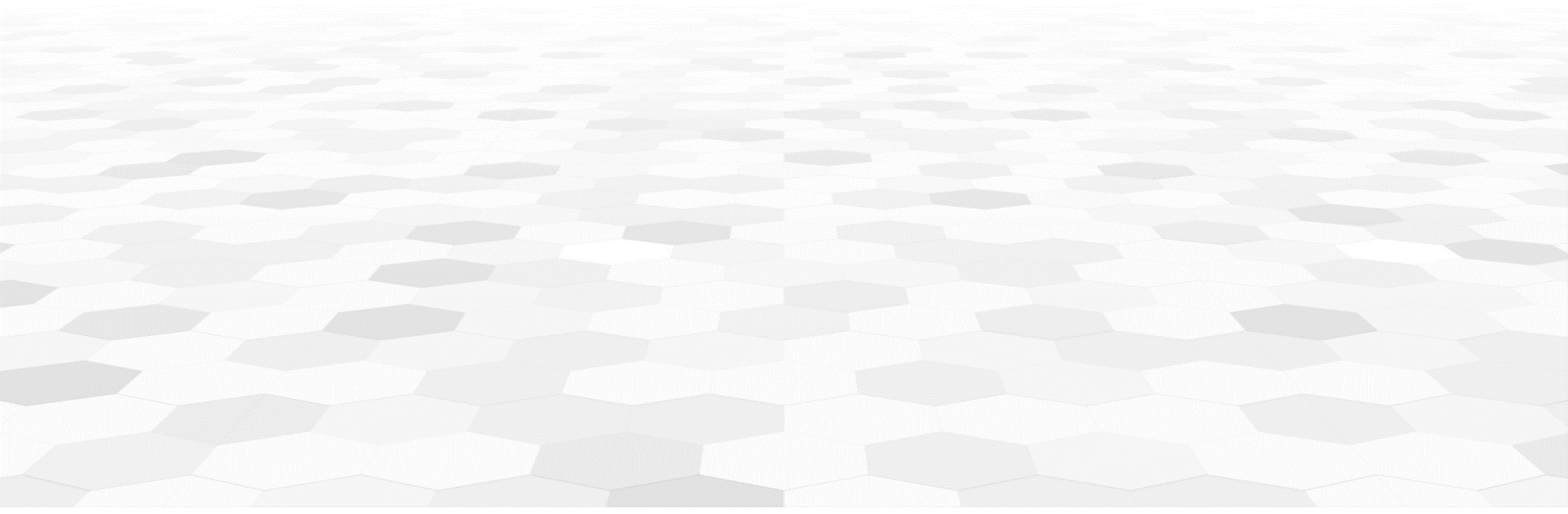
実演

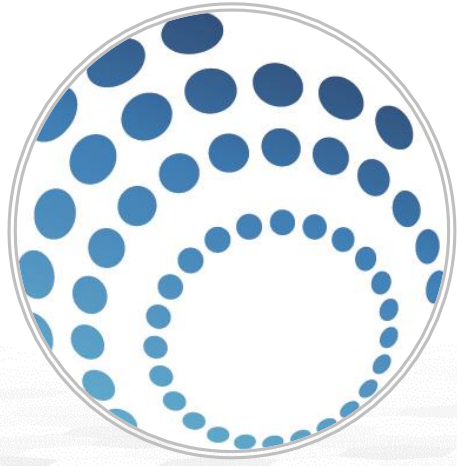
収録協力: **UZABASE**

講義まとめ

- **比較倍率は EV/EBITDA や EV/EBIT を一般的に用いる。業種に応じて PER や売上高倍率なども検討する。**
- 類似企業であったとしても、計算した倍率がマイナスになるなど、採用値として適切でないと判断される場合は倍率の平均から除外する等の調整を行う
- **対象会社の数値を用いて計算を行う際には、数値を使用する時点を、類似企業の倍率を計算した時点と揃える必要がある。直近期、Last 12 month、次期予想など。**

質疑応答 - Q&A





バリュエーション講座
ケース「晴海汽船株式会社」
第17回

終了